

庭園いろどりプロジェクト

# Ariake Garden Story

— 病院棟5階 屋上庭園物語 —

Vol.2

2020.12



病院長・看護部長が語る  
庭園いろどりプロジェクトへの想い



病院長 佐野 武  
Takeshi Sano



看護部長 清水 多嘉子  
Takako Shimizu

2018年にリニューアルした、病院棟5階にある屋上庭園。リニューアルにあたっては「庭園いろどりプロジェクト」を立ち上げ、多くの方のお力を借りながら進めていきました。今回は、プロジェクトを牽引したがん研有明病院長、そしてプロジェクトリーダーを務めた看護部長の対談をお届けします。

— まずは、リニューアル以前の屋上庭園について、お2人はどのような印象をお持ちでしたか？

**佐野** 当院には以前、この5階の屋上庭園だけでなく、1階にも広い庭園があり、多くの患者さんが診察や治療の合間の気分転換に利用していました。建物が手狭になって新棟を建設することになった時に残念ながらその1階の庭園はなくなることになったのですが、当時の5階の庭園は花の種類も少なく、少し寂しい印象を受けていました。

**清水** 院長のおっしゃる通りで、広くて散歩もリハビリもできる場所なのに、もったいないなという印象でしたね。自動散水装置もあり施設課の方も水やりをしてくださっていたので、設備、環境的にも整っていたんです。ゆっくり座ったり本を読んだり、患者さんが病室の中とは違った空気を味わえるような場所として、もっと明るく豊かな空間になれば、と思っていました。



**佐野** 私が15年ほど前に担当したある患者さんは、屋上に緑をつくる技術を持っていた方でした。その患者さんとお話をきっかけに「都会の真ん中にある緑」というものに、強く興味をもつようになりました。当時はそのために割く時間も予算もない状態でしたが、いつかはがん研にも患者さんに寄り添える明るい緑の空間を、と思っていました。

— この庭園で過ごした家族との思い出を大切にされている、ある患者さんのご家族からの寄付のお申し出がきっかけとなって発足したプロジェクトですが、今回クラウドファンディングにも挑戦されました。300万円の当初目標を大きく上回るご支援をいただいたときのお気持ちを教えてください。

**佐野** ご支援額は当初目標の2倍以上にもなりました。ここまでご支援いただいたことに大変な驚きと言葉にならないほどの感謝の気持ちでいっぱいになりました。皆さんのお気持ちにどう応えていくべきか、プロジェクトメンバーを中心に考えてもらいました。清水さんがプロジェクトリーダーとして舵を取ってくれていたのを思い出します。

**清水** どういった庭園にすべきか、とても悩みました。イングリッシュガーデンや珍しい植物や季節のお花、見た目にも美しく、患者さんやご家族にとって心の和む場になることをイメージしました。メンバーから様々なアイ

デアが出たのですが、私が特にこだわったのは桜の木です。桜は日本人にとって春を彩る特別な樹木。入院中で出かけられない患者さんも見る事ができたらと思いました。少しでも長く桜を楽しんでもらうために、開花時期の異なる三種を植えていただきました。

**佐野** 当初、桜は当院の環境では難しいと言われていましたね。海に近いので潮風が強く、夏場はとても暑い。海の近くは桜が咲かないと言われており環境としては決して良くありませんが、それでも今年は一本の桜の木から小さな花が咲きました。庭師の方も私たちの想いを叶えるため丁寧に整備してくださっています。桜をはじめ様々な花や緑に四季を感じながらいろいろな思い出を振り返ったり、未来への想いを馳せたり、きっと患者さんの力になるはずですよ。



— 寄付により屋上庭園は綺麗なお花や緑に溢れたとても明るい空間に生まれ変わりました。患者さんや職員の反応はいかがでしたか？

**佐野** 想像以上に評判はいいですね。改修前の庭園を知っている患者さんは、総じてその変わり具合に驚きの声を上げられます。以前の入院では庭園に足を運ぶ機会のなかった患者さんでも改修後はご覧になる方が多く、入院中に「庭園の花に何度も心を救われた」と涙を流しながら感謝の言葉をくださる患者さんもいらっしゃいました。

**清水** それは嬉しいですね、一生懸命に取り組んだ甲斐がありました。庭園の改修後は患者さんが足を運ぶ機会が増えています。月に一度は庭師の方が来てくれており、その作業の様子を患者さんが興味深そうに見ていらっしゃることもあります。お花が好きな方やガーデニングが趣味の方は、いつも植物の様子を気にかけてくれています。他にも読書をしている方やヨガをしている方、日光浴をしている方、なかには楽器を演奏している方もいます。とても明るい場になったおかげで、看護師が患者さん

に「庭園が素敵なので散歩に行ってみませんか?」と積極的に言えるようになったと喜んでます。

— 次は、屋上庭園を維持していくことが重要になっていくと思います。今後の取り組みや、屋上庭園をどのような場所にしていきたいかなどの展望についてお聞かせください。

**清水** おっしゃるとおり、四季折々の花を植え替えてこの環境を維持するには、相応の費用がかかります。秋のコスモスなど、評判の良かった花は次の年にも植えながら、新しい花の組み合わせも毎シーズン考えて頂いています。自助努力を継続しながらも、これまでのようにご理解ある方から寄付をいただくとありがたいです。この先、桜の木は大きく育っていき、より多くの花を咲かせます。ウッドデッキは年を重ねるごとに成熟していくので、その過程を見ていくことも楽しみです。

**佐野** 入院をされている患者さんは、日々病気と闘うなかで肉体的・精神的にも辛い思いをされています。なかには病室から出歩けない方もいらっしゃるの、病室から見下ろす屋上庭園の景色が患者さんの心を癒す場所になればいいなと思っています。

**清水** そうですね。外に出て、草木や花に囲まれることで、日々の闘病からふと離れられる、「患者さん」ではなく「自分」を取り戻す時間になるのではないかと思います。患者さんに屋上庭園をそんな場と感じていただける、心と身体の回復を支える場所にしていきたいと思っています。

**佐野** そのために様々な場面で屋上庭園を活用していきたいですね。例えば、患者さんのカウンセリングを行う際にリラックスしていただくために庭園で行ったり、あるいは桜が咲く時期にイベントを開催したり。職員一同、患者さんのためにできることを考え実現しながら、この屋上庭園をますます進化させていきたいと思っています。





## 屋上庭園維持のための寄付を募っています。

庭園いんどりプロジェクトでは、皆様からの寄付を募っております。1年を通して季節の花や美しい緑が患者さんやご家族をお迎える場にしていくためにも、継続的なメンテナンスが必要です。たくさんの笑顔にあふれた心休まる癒しの空間を、今後も維持してまいります。ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

寄付の方法などは  
こちらをご覧ください

庭園いんどりプロジェクトWebサイト  
<https://www.jfcr.or.jp/donation/report/garden.html>



公益財団法人 **がん研究会** 経営本部  
JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH 募金課

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31

TEL 03-3570-0512(募金課 直通)

FAX 03-3570-0604

MAIL [fund@ml.jfcr.or.jp](mailto:fund@ml.jfcr.or.jp)

WEB <https://www.jfcr.or.jp/donation/>



ご支援のお願い